

第6章 モーターボート競走

第1節 モーターボート競走とは

モーターボート競走（以下「競走」という。）は、いわゆるボートレースのことである。競走は、競馬、競輪、オートレースと同じく公営競技の一つであり、6艇のモーターボートが1周 600メートルの競走水面を3周して着順を決定する競技である。

また、競走は日本で生まれた公営競技であり、1952年4月に長崎県の大村競走場で初めて開催されて以降著しい発展を遂げ、今日では健全な大衆レジャーとして広く社会に定着している。



第2節 モーターボート競走の仕組み

（1）競走の趣旨

競走は、①海事関係事業（船舶関係事業・海難防止事業等）の振興、②公益事業（観光事業・体育事業等）の振興、③地方財政の改善を目的として、1951年に制定されたモーターボート競走法（以下「競走法」という。）に基づき、1952年から実施されている。

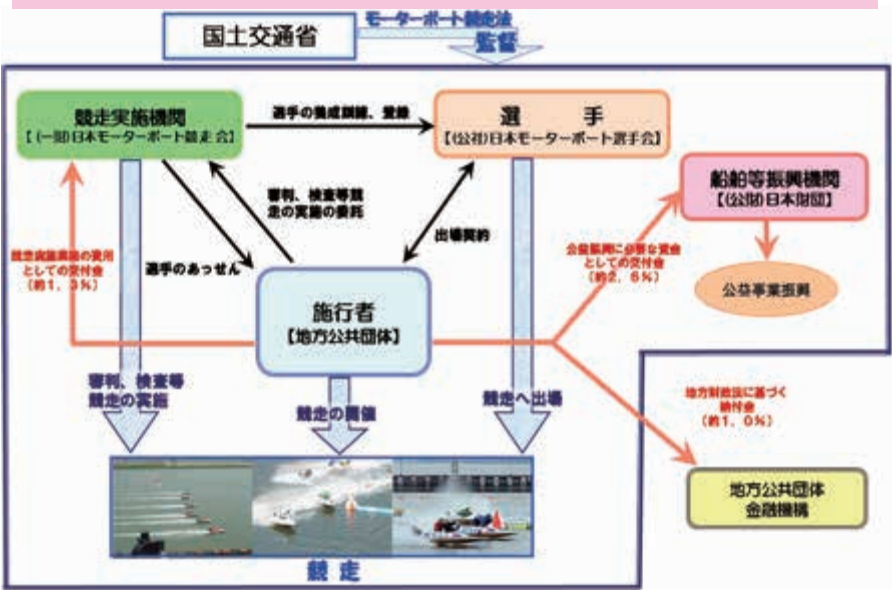
（2）競走の運営

競走は、国土交通大臣の許可を受けて設置された、全国に24ある競走場で実施されており、都道府県又は総務大臣の指定を受けた市町村（以下「施行者」という。）が行っている。現在、施行者数は35（県1、市19、町1、施行組合14：施行者構成自治体数は103）であり、年間延べ4,500日前後の競走が開催されている。競走に出場する選手や競走に使用するボート、モーターの検査、競走の審判等、競走の競技に関する事務については、競走法に基づく競走実施機関として指定を受けた（一財）日本モーターボート競走会（以下「競走会」という。）が、施行者から委託を受けて実施している。

（3）売上金額の推移

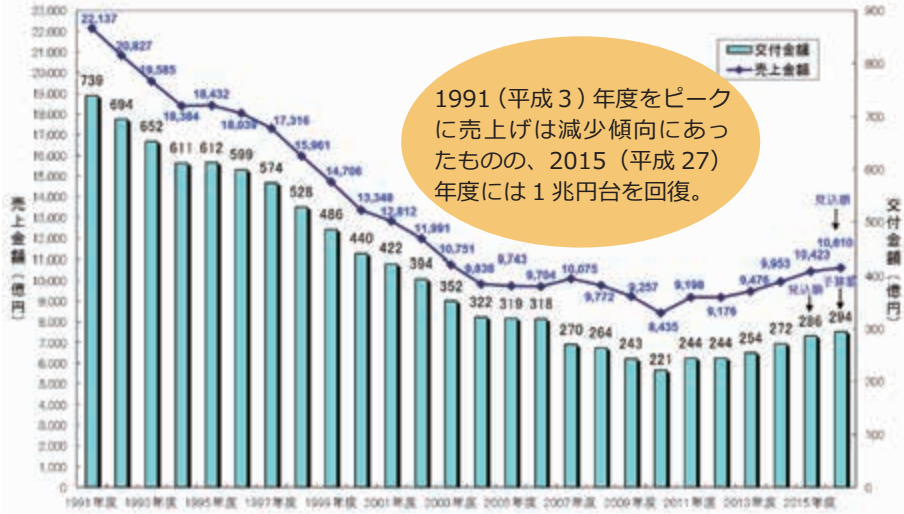
競走の売上金額は、1991年度の2兆2,137億円をピークに年々減少し、2010年度にはピーク時の約4割まで減少したが、その後緩やかに増加しており、2015年度は対前年度比4.7%増の1兆423億円になり、2007年度以来8年ぶりに1兆円台を回復した。

図表Ⅱ－6－1 モーターボート競走の運営の仕組み



図表Ⅱ－6－2

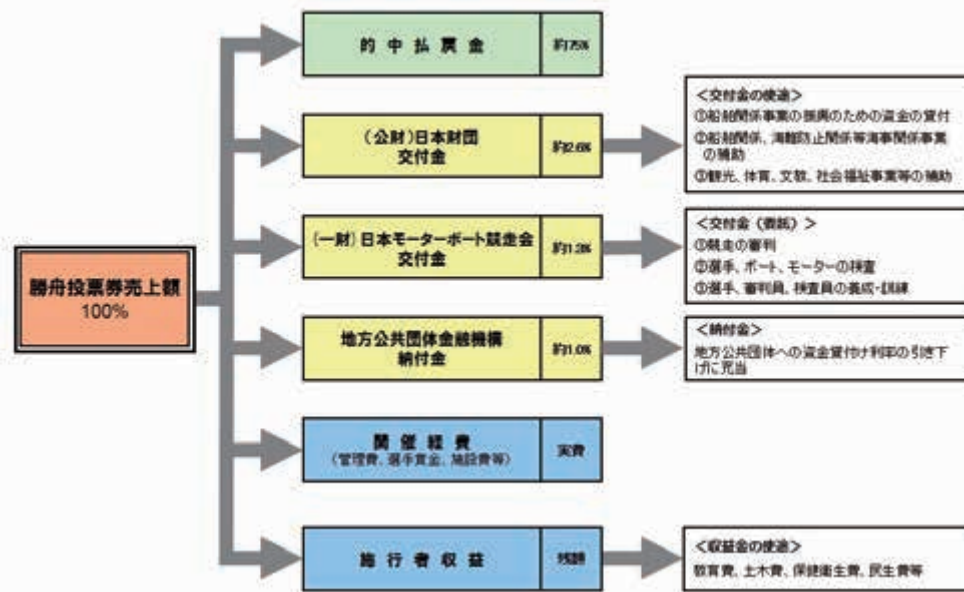
モーターボート競走の売上金額及び（公財）日本財団への交付金額の推移



(4) 売上金の配分

競走の売上金のうち、その約75%は、施行者から舟券の中者へ払い戻される。残りの約25%については、約2.6%が施行者から船舶等振興機関（競走法に基づき（公財）日本財団を指定）に交付され、船舶関係事業及び公益事業への補助事業等に活用されている。また、約1.3%が施行者から競走実施機関（競走会）へ交付され、競走の競技関係事務を実施するために利用されている。さらに、約1.0%が施行者から地方公共団体金融機構へ納付され、当該機構が行う地方公共団体への貸付の金利の引き下げに充当されている。これらの法定経費を売上金から差し引いた残額から、さらに競走の開催経費等を差し引いた金額が、施行者の収益となる。

図表Ⅱ－6－3 モーターボート競走の売上金の流れ



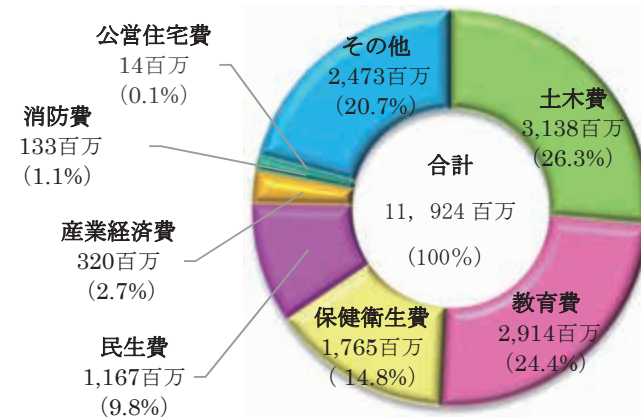
① 船舶等振興機関への交付金の使途（海事振興・公益振興）

船舶等振興機関（日本財団）は、施行者から交付金を受け入れ、造船関係事業者への資金の貸付事業、海事関係事業や公益事業への補助事業等を実施している。補助事業については、具体的には、造船技術の研究開発、海事関係人材の育成、海洋教育の推進、観光に関する調査研究、スポーツの普及振興、福祉車両の配備、障害者支援、災害復興支援などの事業に補助を行っている。こうした仕組みにより、公益性が確保され、競走法の目的である海事関係事業の振興及び公益事業の振興が図られている。

② 施行者の収益金の使途（地方財政の改善）

施行者は、収益の一部を当該施行者の一般会計に繰り出し、社会福祉、医療、教育文化、体育等に関する施策の実施に必要な経費に充てている。具体的には、学校建設・改修や図書館図書の実費等の教育費、土地区画整理事業や道路・橋・上下水道等整備事業等の土木費などに充てられている。施行者の一般会計への繰出金は、2014年度は約119億円、1952年からの累計では約3兆8,648億円となっている。こうした仕組みにより、競走法の目的の一つである地方財政の改善が図られている。

図表Ⅱ－6－4 施行者収益の使途別占有率（2014年度）



第3節 モーターボート競走事業の発展に向けた取組

国土交通省は、施行者・競走会等の競走関係者と協力して、競走の公正かつ円滑な実施及び競走事業の健全な発展と社会的意義の実現を図ることとしており、競走関係者は様々な取組を進めている。

(1) 施設の設置、整備・改修

・ 外向発売所

利用者の利便性向上を図るために、競走場に入場しなくても競走場の敷地内で舟券を購入できる施設であり、既に21競走場で設置されている。

また、2015年度に芦屋・三国競走場にて改修、浜名湖競走場にて移設が実施された。更なる顧客満足度の向上を図るため、競走場での設置及び既存設置場においての改修が進められている。

・ 場外発売場

競走場外で舟券の発売を行う施設で、全国で69ヶ所設置されている。

第Ⅱ部 海事の現状とその課題

2015年度は7ヶ所（長崎県北松浦郡佐々町、三重県名張市、北海道旭川市、愛媛県西予市、佐賀県鹿島市、愛知県名古屋市中区栄、京都府京丹後市）で新たに設置された。新規顧客獲得のため、新規場外発売場の設置が進められている。

・特別観覧施設「ROKU」

若者や女性を中心とした新規顧客層の獲得や地域の方々との交流を目的とした特別観覧施設「ROKU」の設置が進められている。

この内アルミフレーム・ユニット型ROKUは、ユニット型アルミフレームを組み合わせることで面積や形状を問わず多様な設置場所に対応できる柔軟性が評価され、公益財団法人日本デザイン振興会主催の2015年度のアミューズメント施設部門においてグッドデザイン賞を受賞した。

「ROKU」は8競走場（江戸川・三国・尼崎・丸亀・宮島・芦屋・大村・鳴門）で導入されており、初心者向けの舟券購入教室や各種イベントで活用されている。

・ボートレースアンテナショップ

ボートレースの魅力を伝えることを目的としたアンテナショップが設置されている。店舗内でボートの実機展示やレース映像の放送が行われるだけでなく、各店舗の周辺での祭事に積極的に出展し、新規顧客の開拓が実施されていると共に、選手募集セミナー等も実施され、選手募集にも注力している。

（2） インターネット投票

・電話投票サービス 30 周年

1985年に平和島競走場においてサービスが開始された電話投票サービスが、2015年に30周年を迎えたことを記念して、ボートレースを連想させる6色の衣装やターンマークの帽子、スマートフォンを身に着けた、新しいマスコットキャラクターである「クマホン」が発表された。

・ネット投票の利便性拡大

いつでもどこでもボートレースを楽しめるよう、ネット投票機能の拡充が進められている。ネット投票会員



北海道唯一の場外発売場
ボートレースチケットショップ旭川



江戸川競走場 ROKU江戸川



新マスコットキャラクター
「クマホン」

第6章 モーターボート競走

の申込は、指定銀行の口座があれば最速15分で投票することができ、2015年度には新たに5銀行が指定銀行としてサービスを開始し、利用者の利便性向上が図られている。

（3） ボートレースのイメージアップ

・CMの全国展開

2015年末から、全国で新CMの放映が開始された。本シリーズは3年目を迎える“ダイナマイトボートレース CM シリーズ”の最新作であり、架空の都市“水の都・BOEDO CITY”を舞台に、風紀委員であるNINJYAが、BOEDOの風紀を乱しているユニークなキャスト陣を改心させていく時代活劇となっている。メインキャラクターは、2015年に引き続き女優の「すみれ」が務めており、こだわりの音楽と本格的な演武で2016年のキーワードである“Change yourself - 己を変えろ”が表現されている。



"Change yourself - 己を変えろ"をキーワードとする時代活劇

・LINE

若年層をメインターゲットとした新規顧客獲得施策の一環として、「ボートレース LINE 公式アカウント」が公開された。ボートレース未経験者への認知を高め、ボートレースのイメージアップを目指した取り組みが行われている。



☆日本財団の交付金による事業の紹介☆

～ 日本財団パラリンピックサポートセンター ～

パラリンピックとは？

パラリンピックは、約 70 年前にイギリスのストーク・マンデビル病院内で開かれた、患者のリハビリを兼ねたスポーツ大会が起源とされています。1960 年のローマオリンピックと同じ年に行われた第 9 回大会が第 1 回パラリンピック大会と呼ばれるようになり、第 2 回は 1964 年に東京で開催されました。こうして、パラリンピックはリハビ



リのための大会から世界最高峰の障害者スポーツ大会へと発展しました。対象者も「車いす使用者」から広がり、もうひとつの (Parallel) + オリンピック (Olympic) という意味で、「パラリンピック」という公式名称も定められました。2012 年のロンドン大会は 164 カ国・地域、4310 人の選手が参加し、史上最多の観客動員数を記録しました。今やパラリンピックは、オリンピック、サッカーワールドカップに次ぐ、世界で 3 番目に大きなスポーツイベントに成長しています。

「パラリンピックサポートセンター」の設立

2020 年、パラリンピックは再び東京で開催されることとなりました。同一都市で 2 回目の開催は世界初となります。ところが、パラリンピックを日本で開催するにあたっては、組織基盤や事務局運営に課題を抱えている競技団体が多いことや、選手たちの練習環境が十分に整っていないこと、さらに、国民の障害者スポーツへの関心が低く、ボランティア育成も不十分な状況であること等、依然として多くの課題が残っています。

こうした課題を克服し、2020 年東京パラリンピックの成功と障害者スポーツの振興を目的として、「日本財団パラリンピックサポートセンター」が日本財団の支援によって 2015 年 5 月に設立されました。共同事務所としての機能を充実させて競技団体の運営を支える他、ボランティア育成や、パラリンピックの理解促進も行っています。

障害者と健常者がたすきをつなぐ「パラ駅伝」

日本財団パラリンピックサポートセンターは、「パラ駅伝 in TOKYO」を 2015 年 11 月 29 日に開催しました。障害者と健常者が 1 つのチームとなり、ゴールに向かって 1 本の

たすきを繋ぐというもので、今大会が 1 回目となります。駒沢オリンピック公園（東京都）が会場となり、19 チーム、171 人のランナーが共に汗を流しました。障害者と健常者が共同で競技に取り組む機会、また、障害者スポーツへの関わりが薄かった人々が観客として選手を応援する機会を提供することによって、障害者スポーツへの理解を深める場となりました。日本財団パラリンピックサポートセンターは、障害者スポーツの普及促進につながる事業に取り組んでいます。



☆モーターボート競走の施行者収益金による事業の紹介☆

～ 観光エリアのわかりやすい案内サイン整備（浜松市） ～

浜松市は、浜名湖競走場の施行者構成自治体であり、2009 年の富士山静岡空港の開港や 2012 年の新東名高速道路の開通などを契機に、県内はもとより国内外からの来訪者も増加しています。

浜名湖や天竜川、遠州灘など、全国に誇る風光明媚な景勝地・名所等を数多く有する浜松市では、訪れた皆様が市内を安全で快適に移動することができるよう、主要な観光ルート上にある経路案内標識や、地域ごとの観光エリアを案内・誘導する標識など、わかりやすい案内サインの整備を行いました。

また、浜松駅周辺においては海外から訪れる観光客などへの配慮として、歩行者用の案内サインを多言語化するなど、受入環境の整備を進めています。

ボートレースの収益金は、このような公共施設の充実に活用されています。





全国 競走場

4月28日、新スタンド オープン！！

概要

鳴門競走場は、全国24場中11番目に誕生し、徳島県の北東端に位置する鳴門市にあります。

主催する自治体は鳴門市が1953年4月24日、松茂町ほか二町競艇事業組合は1966年5月23日にそれぞれ初開催し現在に至っています。

2014・15年度は国の護岸工事に合わせて老朽化したスタンドを建て替えるために休催していましたが、2016年4月28日からリニューアルオープン記念競走が開催され、7月にはSG第21回オーシャンカップが開催されます。



新スタンド外観



うずしおをモチーフにしたモニュメント

マスコットキャラクター&新ボート

鳴門競走場のマスコットキャラクターは、スタンドリニューアルに併せて、新「なるちゃん」として生まれ変わりました。

併せて、ボートも新デザインとなり、鳴門海峡をイメージさせる、うずしおブルーが印象的なスタイリッシュなデザインになりました。



なるちゃん

新ボートデザイン



探 訪

鳴門 篇

新スタンド

観戦のメインフロアはスタンド3階となり、一般席と有料席「オーシャンシート」が設けられています。水面側は遮るものが何もない全面ガラス張りとなり、快適なレース観戦をすることができます。

4階は全席座ったまま投票ができるキャッシュレス在席投票システムが導入されています。

スタンドとは別棟で「ダイナミックキャビン」も建設され、特別観覧施設「ROKU」等が設置されています。

また、海上ステージ等も整備され、様々なイベントが実施されています。



ガラス張りのスタンド



在席投票



特別観覧席



オーシャンシート

グルメ

鳴門競走場は、小さきさまざまな渦潮が発生することと有名な鳴門海峡のすぐそばに位置しています。

その鳴門海峡産の有名なグルメとして、「鳴門鯛」があります。激しい潮流にもまれることで、身が引き締まり、味も格別です。海産物では「わかめ」も有名です。ほかにも「徳島ラーメン」や「なるちゆるうどん」、ちょっとしたアクセントとして「すだち」といった名物もいかがでしょうか。

